

ふるさと交友録

～伊藤 公平～ 16

「ふるさと」には、いろいろなひとがいる。この「交友録」では、月1回のペースで公平さんの“大切なひとびと”を紹介していきます。



新井宇太郎さん

北見市開基75年・北見新聞創刊60年記念
「北見の今昔」より

伊藤公平(いとうこうへい)北見市在住、郷土史
研究家。私設図書館「麦の風文庫」と「野草苑が
あでんきたみ」主宰。平成13年～20年、みんとに
「ふるさと四方山話」「ふるさと・そぞろ歩る記」
を連載。道新「ときわぎ」執筆者の一人。

さてまた、新井宇太郎さんの話。

敵もさる者といおうか、さすがはお役
人といおうか。宇太郎さんの抗議をさら
りと躲^{かわ}してお役人は言った。「ほかの人達
は私共の提案に納得されてハンを押した
というのに、困りましたねエ。それにあな
たは、お父上の代理としておいでになっ
ているのでしょうか? どうでしょう、今日の
ところは一旦お帰りになって、お父上とご相
談いただけませんか。代わりの土地につ
いては私共も良く検討させていただきます
ので:」。宇太郎さんはうまくはぐらかさ
れてしまった。宇太郎さんは戸主でないの
だから、この説得は受けざるを得なかった。

事の顛末^{てんまつ}を話すと、父・竹次郎さんは
長嘆息のあと、言った。「皆さんが同意し
たというのに、私たちがだけが反対もなるま
いな」と。

結局、せっかく拓いた土地ではあるが、
買い上げに応じることにした。この時、ま
だ未開の土地を一町歩ほど持つていたが、
今、ここには旭川の護国神社が建っている。

この話と同じ明治三二(八九八)年、宇
太郎さんは徴兵された。土地を買収され、
一年後の収穫終了時にはこの土地を引き
渡さなければならず、又、新しい開拓地も
探さなければいけないという時の徴兵で
ある。

幸運の女神は宇太郎さんに微笑^{ほほえ}んでく
れた。宇太郎さんは月寒^{げん}隊に新設され
たばかりの特科隊衛生隊に入隊したが、
なぜか四カ月で除隊となったのである。三
之助さんの自伝「落穂」には、この時代す
でに新兵いじめがあったことが宇太郎さん
の思い出話として記録されているが、除隊
の理由は書かれていない。

永山の土地での最後の種まきにはまだ
早い時期に除隊となった宇太郎さんは、
直ちに天塩方面に適農地を探しに出たが、
良い土地はすでに人の手が入っており、や
つと見つけた土地も、熊本県の団体がすで
に払い下げの申請を出していた。宇太郎
さんは最後の種まきのため永山村に戻っ
た。